

出羽三山を歩く

月山 (1,984 m)と湯殿山 (1,500 m)同様、羽黒山 (414m) は、古くから、「出羽三山」と呼ばれ崇められてきました。出羽三山は 1～2 時間で歩ける簡単なコースから数日かかる上級者コースまで、複数のコースで繋がっています。

出羽三山の巡礼コースである三関三渡（さんかんさんど）は、この地域で最も人気な体験の 1 つです。修験道で行われる「生まれ変わり」の象徴的な旅であり、仏教と神道両方の要素を含んだ古くからの山修行の伝統です。三関三渡沿いの山々の標高は比較的低いものの、3 つの山すべてを歩くのは大変です。三関三渡は全部で 2 日要するため、多くの人々はその一部のみを歩きます。

月山ビジターセンター近くの随神門から羽黒山の頂上に登る道は、多くの人にとって簡単で 90 分ほどで歩けます。このコースには、多数の神社と杉でできた古くからの仏塔が立ち並んでいます。明治時代（1868～1912）以前は、この山にはもっと多くの仏教建造物がありました。しかし、明治政府が誕生した直後に状況は変わりました。明治政府は神道を国教化し、神道と仏教を分離するための改革を行いました。その過程で、修験道は神道に組み込まれ、羽黒山にあった仏教建造物のほとんどは破壊または移転されました。羽黒山の仏塔と随神門は、残り少ない仏教の遺構うちの 2 つです。

月山の難易度は他より高く、8 合目コース入口からは約 3 時間を要する登山です。このコースの一番の見どころは、標高約 1,400m の稜線に沿った「弥陀ヶ原湿原」です。この湿原には沼が点在しており、夏にはヒメカンゾウ (*Hemerocallis dumortieri*)、ヒナザクラ (*Primula nipponica* Yatabe)、丸い葉を持つモウセンゴケ (*Drosera rotundifolia* L.) といった高山植物が生い茂ります。

他の登山同様、出羽三山の登山には計画と準備が必要です。羽黒山の頂上は、1 年を通して登ることができますが、三山すべてに登ることができるのは 7 月から 9 月中旬までに限られます。それ以外の期間は、厳しい気象条件のため不可能です。中でも気候が変わりやすい月山に登る際は、計画が特に重要となります。月山の陰しい西側は日本海の方を向いており、しばしば強い風に襲われます。東側の斜面は深い積雪に覆われ、月山の一部は真夏まで雪に覆われています。月山ビジターセンターでは、コースのあちこちに設置したカメラからのライブ映像が流れています。訪れた際は、この情報を確認して天候に合わせた準備を行ってから、出発するようにしましょう。

風と寒さから身を守るために、暖かくてすぐに乾く衣服や、防水の上着などを重ね着して、登山靴を履きましょう。また登山には完全に充電した電話と、十分な食料・飲料も携帯しましょう。

山でのキャンプは禁止されていますが、道中には宿泊施設が豊富にあります。人気のある選択肢は簡素な宿泊施設の「宿坊」です。巡礼者たちは、何百年も宿坊に泊ってきました。

登山者は、この地域のツキノワグマに出くわさないよう注意してください。クマ除けの鈴を携帯しておく、クマに人間の存在を警告でき、普通はクマを避けられます。予想外にクマに出くわしてしまった場合、クマを驚かさないようにします。走ったり、叫んだり、近づいたり、写真を撮ったりしてはいけません。クマには背を向けず、慎重に遠ざかります。